

2002年度 栽培クラブ「反省と今後」

2003年2月19日

都市生活者に、少しでも“農”を経験していただこうという思いから、呼びかけをした栽培クラブではありますが、1年目ということもあって思うような活動の成果を挙げる事ができませんでした。この呼びかけのそもそもの理由は、“農”というものを、体験を通して広めたいとの思いからです。特に、私の行う有機農業と都市生活者の思い描くそれに関する一般的な理解度が、大変遠く乖離していることに気が付き始めたからです。敷居を低くし門戸を開放する姿勢は変わりませんが、これから2年目を迎えるにあたり、サロンの活動と目標を持った活動の2つを用意します。2度の反省会を通じて、来年度は後者の方にも少し力を入れようと思います。かといって、余暇をゆったりと過ごされる施設で、過度のノルマを課すものではありません。まず参加者の主体性を重視して、参加者の中にある“農”に関連する興味・関心事を挙げていただき、共通のテーマとして取上げ実行するにふさわしいか否かを、私との間で検討させていただこうと思います。そのような手続きを経たいくつかのテーマを公知し、参加者を募る方法で進めたいと思います。組織の形態は、小集団活動のようなものです。

実行されるいくつかのテーマは、それぞれ縦割りに管理されるものの中間報告会といった相互理解を図る場も設けて、風通しのよい環境を整備することに努めます。

また、活動そのものが作物を作ることがメインになりますから、その後の活用方法を検討することも急務となります。ただし栽培クラブは、笠間クラインガルテンの中にある組織ですから制限もあります。たとえば利用者の営利行為は禁じられています。ひとつの意見として、笠間市内の施設等に交流の意味をこめてお使いいただくことなども提案されました。ここは「笠間」クラインガルテンであります。しかしながら知名度に若干の偏りがあります。クラインガルテン本来の立場を考えると、このような提案は広く認知していただけるような方策の一つかと思います。また、このような活動を通じて、新たな可能性を探りたいとも思います。なぜならそれこそがクラインガルテン運営の夢だからです。経済効果を客観的に表せることが最大の成果なのです。残念ながらまだしばらくは、大きな経済効果を生じそうな事例が見当たりませんから、情報発信・イメージアップの拠点としての活動が中心になります。

上述以外でも、参加活動されるみなさまにより、さらに大きな広がりとなるようご協力をお願いいたします。そして、この活動は、取りも直さず地域との交流を発生させます。せっかく発生した活動成果を広く発信したいとの思いから、メールマガジンを立ち上げまし

た。それには少しばかり欲張って、関連する笠間の話題も加えました。これには行政の協力を欠くことはできません。ですから、このメルマガは、笠間クラインガルテンの広報紙であると思います。

いずれにせよ、少しでも興味をお持ちであれば、それなりに参加できるような組織運営を目指そうと思っています。大切にしたいことは参加者の気持であり、それが尊重されるように進めたく思います。

新たに入会を希望される方、また継続を希望される方は、斎藤もしくは A - 1 安藤まで年会費 500 円添えてお申し出下さい。

なお、本年は会費を使用していません。このまま次年度に繰り越させていただきます。また、今後活動に係る経費は、大まかになります計上させていただきます。特筆すべき点がない限り、斎藤に一任ください。

以上、まとめなく記しました。不満な点や不備についてはいろいろとお聞かせください。それにより、これから乱立するであろう類似施設の魁を担い、なによりこの笠間クラインガルテン栽培クラブの活動に携わられた参加者が、満足いただけるような活動を続けたく思います。

最後に、反省会で挙げた興味・関心事項（テーマ）を記します。内容的に、詳細を詰めないと活動にならないものもありますが、まずはこのような提案を募ります。

- 1、花壇作り
- 2、西洋野菜（珍しい野菜）作り
- 3、コンニャク芋作り（農家の講師を招き交流を考え）
- 4、サトイモの産地適性試験
- 5、トマト作り
- 6、雑穀作り（地方かつクラインガルテン発の新商品開発を見据えて）
- 7、肥培管理の違いによる生育差異の試験

8、(収穫時の楽しみを考えた)手間のかからない野菜(サツマイモなど)作り

9、ゴマの種皮色の分離固定

10、土壌改良資材の効果

提案は、3月16日までとします。その後、発起人は私と詳細を検討します。場合によっては、手配など準備に時間がかかるものがあります。実現可能なものは随時公表し、発起人中心に活動を進め、同時に参加者を募ります。

[斎藤典保]